第３種郵便物認可　（日刊）　新　潟　日　報　20

野党共闘「３連敗」阻止

組織が着実に票上積み

与党、イメージ低下響く

県内

参院新潟区　自民ゼロ、結党後初

「ど素人で落下傘。勝つ気があるのか」。野党勢力の間では当初、立憲民主党が県外出身の打越氏の擁立を決めたことに不満の声が渦巻いていた。全県選挙の経験がない立民県連が仕切る選挙対策本部に距離を置く関係者が相次ぎ、選対幹事長不在という異例の陣立てを余儀なくされた。

しかし、報道各社が公示直後に行った情勢調査で、打越氏が塚田氏と互角の戦いを展開していることが分かると流れが変わった。

昨年の知事選と新潟市長選に続き野党統一候補が敗

21日投開票の参院選新潟選挙区（改選数1）は、野党統一候補で無所属新人の打越さく良氏(51)が、３選を目指す自民党現職の塚田一郎氏(55)を激しい戦いの末に下した。野党勢力内では当初、打越氏が北海道出身の「落下傘候補」であることに反発もあったが、２０１８年の知事選と新潟市長選に続く「３連敗阻止」を合言葉に、各党・組織が着実に票を積み上げた。一方、敗れた塚田氏は道路整備を巡る「忖度」発言によるイメージ低下が最後まで響いた。自民は前回16年に続き野党統一候補に連敗。結党以来、半世紀以上守り続けてきた参院新潟選挙区での議席を全て失った。

打越さく良氏が当選した参院選新潟選挙区の開票作業＝21日午後９時すぎ、新潟市中央区の新潟市体育館

2019年参議院選挙
新潟選挙区市町村別得票（確定）

	打越	塚田	小島	当日の最終有権者 男	当日の最終有権者 女	当日の最終有権者 計	投票者数	投票率 男	投票率 女	投票率 計
県　計	521,717	479,050	32,628	924,985	994,537	1,919,522	1,061,606	57.11	53.63	55.31
市　計	502,986	458,564	31,499	892,271	960,352	1,852,623	1,020,144	56.88	53.38	55.06
町村計	18,731	20,486	1,129	32,714	34,185	66,899	41,462	63.50	60.51	61.98
得票率	50.5	46.4	3.2							
新潟市	173,692	147,917	11,133	319,848	351,920	671,768	341,602	52.44	49.41	50.85
北　区	15,669	13,662	1,066	30,271	32,541	62,812	31,215	51.22	48.28	49.70
東　区	28,701	24,474	2,095	55,481	60,876	116,357	56,709	50.02	47.56	48.74
中央区	38,471	34,821	2,668	70,318	79,650	149,968	78,353	53.31	51.31	52.25
江南区	14,021	12,687	912	27,719	29,902	57,621	28,314	51.01	47.40	49.14
秋葉区	18,832	13,601	994	30,936	34,207	65,143	34,135	54.58	50.43	52.40
南　区	9,071	8,454	544	18,567	19,698	38,265	18,491	51.07	45.74	48.32
西　区	35,618	29,502	2,138	63,000	69,512	132,512	69,089	53.55	50.85	52.14
西蒲区	13,309	10,716	716	23,556	25,534	49,090	25,296	54.09	49.17	51.53
長岡市	63,352	53,922	3,876	111,239	117,554	228,793	124,874	56.27	52.98	54.58
上越市	45,536	40,643	2,817	79,177	83,628	162,805	90,962	57.33	54.49	55.87
三条市	23,337	20,798	1,483	40,343	43,217	83,560	46,849	58.45	53.84	56.07
柏崎市	19,108	19,936	1,353	35,147	36,523	71,670	41,687	60.01	56.39	58.17
新発田市	21,417	20,365	1,257	40,185	43,116	83,301	44,001	55.07	50.73	52.82
小千谷市	9,726	8,678	536	15,095	15,359	30,454	19,450	65.01	62.74	63.87
加茂市	7,041	5,545	386	11,484	12,249	23,733	13,306	58.36	53.91	56.07
十日町市	13,250	14,546	744	22,113	23,348	45,461	29,263	66.26	62.58	64.37
見附市	10,337	8,090	581	16,672	17,854	34,526	19,509	58.74	54.42	56.51
村上市	14,186	14,757	781	24,896	27,412	52,308	30,349	59.82	56.38	58.02
燕　市	18,514	17,378	1,326	32,909	34,947	67,856	38,153	58.52	54.07	56.23
糸魚川市	10,267	12,795	485	17,957	19,058	37,015	24,096	66.66	63.63	65.10
妙高市	8,277	8,695	529	13,419	14,385	27,804	18,897	68.83	67.16	67.97
五泉市	11,520	10,272	813	20,719	22,591	43,310	23,176	56.11	51.13	53.51
阿賀野市	9,459	10,358	559	17,444	18,868	36,312	20,808	59.60	55.18	57.30
佐渡市	12,882	14,197	765	23,032	25,080	48,112	28,466	61.73	56.81	59.17
魚沼市	9,920	9,186	617	15,235	15,979	31,214	20,291	66.73	63.36	65.01
南魚沼市	14,194	13,286	1,032	23,117	24,298	47,415	29,484	63.68	60.75	62.18
胎内市	6,971	7,200	426	12,240	12,966	25,206	14,921	61.67	56.86	59.20
聖籠町	2,596	2,954	208	5,696	5,842	11,538	5,930	52.49	50.33	51.40
弥彦村	2,101	1,751	163	3,342	3,528	6,870	4,150	62.51	58.42	60.41
田上町	3,079	2,486	171	4,935	5,345	10,280	5,875	59.35	55.12	57.15
阿賀町	3,061	3,477	142	4,795	5,109	9,904	6,831	70.41	67.63	68.97
出雲崎町	1,019	1,313	58	1,847	2,011	3,858	2,481	66.97	61.86	64.31
湯沢町	1,909	1,821	133	3,594	3,429	7,023	3,975	56.54	56.66	56.60
津南町	2,392	3,060	108	4,032	4,311	8,343	5,672	71.08	65.09	67.99
刈羽村	1,029	1,464	68	1,973	1,893	3,866	2,632	67.56	68.62	68.08
関川村	1,460	2,010	76	2,349	2,571	4,920	3,672	76.63	72.81	74.63
粟島浦村	85	150	2	151	146	297	244	81.46	82.88	82.15

平成２８年７月１０日執行　　参議院新潟県選挙区選出議員選挙　開票結果（候補者別開票区別得票数一覧）

党派の名称	自由民主党	幸福実現党	無所属	得票数計	開票率（%）
開票区名＼候補者名	中　原　　八　一	横　井　　も　と　ゆ　き	森　　ゆ　う　こ		
新潟市北区	15,988	797	16,454	33,239	100.00
新潟市東区	29,369	1,269	29,656	60,294	100.00
新潟市中央区	41,933	1,495	37,994	81,422	100.00
新潟市江南区	15,006	666	15,236	30,908	100.00
新潟市秋葉区	15,375	747	20,645	36,767	100.00
新潟市南区	9,644	404	9,672	19,720	100.00
新潟市西区	38,709	1,194	34,159	74,062	100.00
新潟市西蒲区	13,371	614	14,090	28,075	100.00
新潟市	179,395	7,186	177,906	364,487	100.00
長岡市	64,940	2,777	68,636	136,353	100.00
三条市	25,379	1,224	24,648	51,251	100.00
柏崎市	22,117	1,216	22,364	45,697	100.00
新発田市	22,909	1,098	23,452	47,459	100.00
小千谷市	9,476	542	10,882	20,900	100.00
加茂市	6,712	401	7,978	15,091	100.00
十日町市	17,131	631	14,771	32,533	100.00
見附市	10,128	456	10,902	21,486	100.00
村上市	17,391	669	15,681	33,741	100.00
燕市	20,265	962	19,702	40,929	100.00
糸魚川市	13,537	495	11,562	25,594	100.00
妙高市	8,414	400	8,649	17,463	100.00
五泉市	12,307	555	13,390	26,252	100.00
上越市	42,433	1,676	50,546	94,655	100.00
阿賀野市	11,113	905	10,162	22,180	100.00
佐渡市	16,289	799	14,726	31,814	100.00
魚沼市	10,703	539	10,672	21,914	100.00
南魚沼市	15,413	719	15,552	31,684	100.00
胎内市	8,247	396	7,363	16,006	100.00
聖籠町	3,177	175	2,774	6,126	100.00
北蒲原郡	3,177	175	2,774	6,126	100.00
弥彦村	2,582	140	2,575	5,297	100.00
西蒲原郡	2,582	140	2,575	5,297	100.00
田上町	3,291	145	3,188	6,624	100.00
南蒲原郡	3,291	145	3,188	6,624	100.00
阿賀町	3,897	162	3,489	7,548	100.00
東蒲原郡	3,897	162	3,489	7,548	100.00
出雲崎町	1,560	44	1,156	2,760	100.00
三島郡	1,560	44	1,156	2,760	100.00
湯沢町	2,160	105	2,144	4,409	100.00
南魚沼郡	2,160	105	2,144	4,409	100.00
津南町	3,362	104	2,858	6,324	100.00
中魚沼郡	3,362	104	2,858	6,324	100.00
刈羽村	1,582	55	1,157	2,794	100.00
刈羽郡	1,582	55	1,157	2,794	100.00
関川村	2,057	60	1,464	3,581	100.00
粟島浦村	183	3	80	266	100.00
岩船郡	2,240	63	1,544	3,847	100.00
政令市計	179,395	7,186	177,906	364,487	100.00
その他の市計	354,904	16,460	361,638	733,002	100.00
町村計	23,851	993	20,885	45,729	100.00
県計	558,150	24,639	560,429	1,143,218	100.00

出口調査

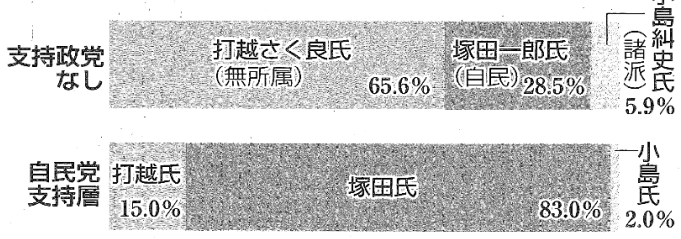
打越氏 無党派65%獲得

野党支持層 大半固める

塚田氏、公明票は7割

県内

新潟選挙区での主な投票行動



新潟日報社と共同通信社は21日、県内40投票所で1718人に出口調査を実施した。調査によると、当選した野党統一候補の無所属新人、打越さく良氏(51)は「支持政党なし」層の65・6%を固めた。一方、落選した自民党現職の塚田一郎氏(55)は28・5%にとどまり、無党派層の投票行動が結果に大きく影響した形となった。さらに打越氏は推薦を受けた立憲民主と国民民主、共産、社民の各党支持層の8～9割も固めた。

支持政党を尋ねたところ、自民支持層が全体の43・1%で最多だった。野党では立民支持層が17・7%で最も多かった。支持なし層は20・8%だった。

打越氏は支持なし層からの得票のみならず、推薦を受けた各政党支持層の票を手堅くまとめた。立民支持層の93・8%をはじめ、共産支持層の88・4%、社民支持層の87・9%、国民支持層の83・9%から票を得た。

一方、塚田氏は自民支持層の83・0%、公明支持層の71・9%から得票。ただ、塚田氏の道路整備を巡る「忖度(そんたく)」発言などの影響を受け、自民支持層の15・0%、公明支持層の17・5%が打越氏に流れた。

訴える野党のうち、立憲民主党は反対87・4%で賛成票を投票しどは票な数7133

019年7月22日『新潟日報』

第３種郵便物認可　（日刊）　新　潟　日　報

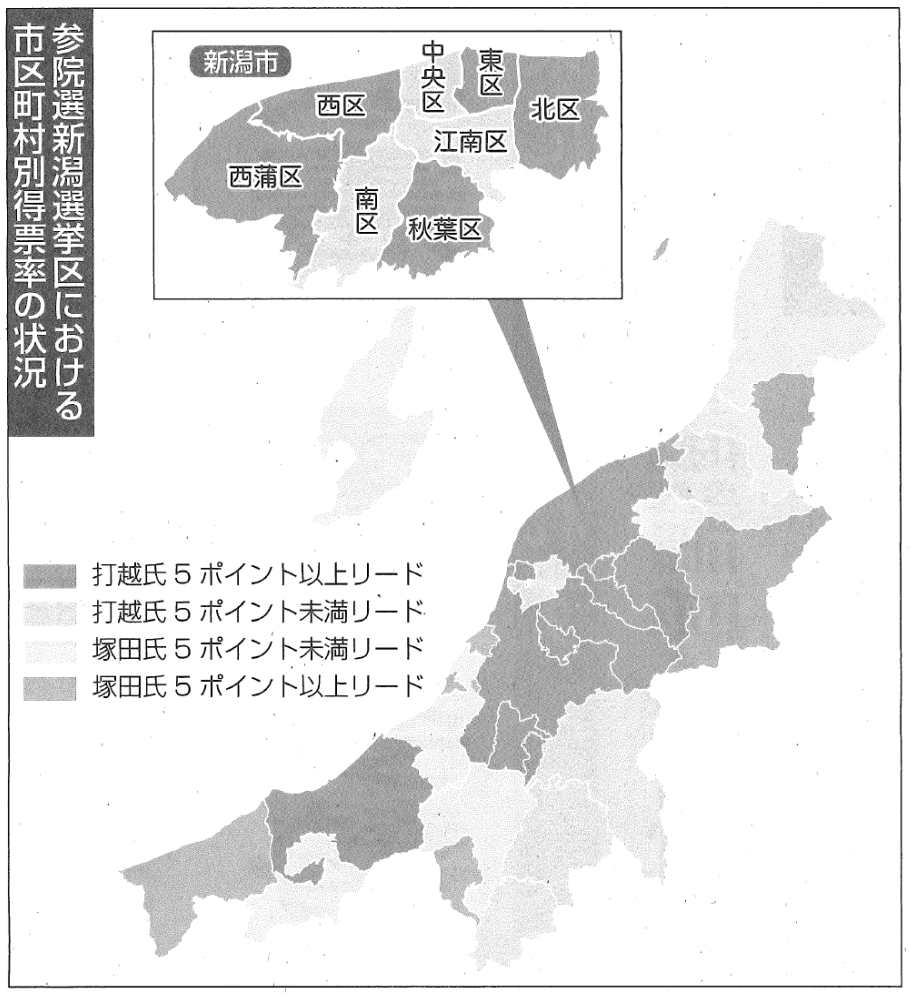
参院選新潟選挙区・市区町村別

打越氏が22勝15敗

無党派多い新潟市全勝

町村部ではリード許す

21日投開票の参院選新潟選挙区で勝利した野党統一候補で無所属新人の打越さく良氏(51)は、30市町村別の得票で自民党現職の塚田一郎氏(55)と15勝15敗だった。大票田・新潟市を8行政区に分けると、この全区で勝利したため22勝15敗＝図参照＝。塚田氏は多くの町村部で打越氏の得票を大きく上回ったが、新潟市だけでなく、長岡、上越、三条、新発田など中規模の都市でも敗れたことが響いた。



新潟選挙区市町村別得票率

(%)

	打越	塚田	小島
県計	50.5	46.4	3.2
市計	50.7	46.2	3.2
町村計	46.4	50.8	2.8
新潟市	52.2	44.5	3.3
北区	51.5	44.9	3.5
東区	51.9	44.3	3.8
中央区	50.6	45.8	3.5
江南区	50.8	45.9	3.3
秋葉区	56.3	40.7	3.0
南区	50.2	46.8	3.0
西区	53.0	43.9	3.2
西蒲区	53.8	43.3	2.9
長岡市	52.3	44.5	3.2
上越市	51.2	45.7	3.2
三条市	51.2	45.6	3.3
柏崎市	47.3	49.4	3.3
新発田市	49.8	47.3	2.9
小千谷市	51.4	45.8	2.8
加茂市	54.3	42.7	3.0
十日町市	46.4	51.0	2.6
見附市	54.4	42.6	3.1
村上市	47.7	49.6	2.6
燕市	49.7	46.7	3.6
糸魚川市	43.6	54.3	2.1
妙高市	47.3	49.7	3.0
五泉市	51.0	45.4	3.6
阿賀野市	46.4	50.8	2.7
佐渡市	46.3	51.0	2.7
魚沼市	50.3	46.6	3.1
南魚沼市	49.8	46.6	3.6
胎内市	47.8	49.3	2.9
聖籠町	45.1	51.3	3.6
弥彦村	52.3	43.6	4.1
田上町	53.7	43.3	3.0
阿賀町	45.8	52.1	2.1
出雲崎町	42.6	54.9	2.4
湯沢町	49.4	47.1	3.4
津南町	43.0	55.0	1.9
刈羽村	40.2	57.2	2.7
関川村	41.2	56.7	2.1
粟島浦村	35.9	63.3	0.8

打越氏は、本県有権者数の約3分の1を占め、無党派層の多い新潟市全体で塚田氏に2万5千票余りの差を付けた。得票率は52%を超え、塚田氏を7・7ポイントも上回った。全勝した新潟市の全8区の中でも、これまで野党系の票が多く出ていた秋葉、西蒲など五つの区で5ポイント以上リードした。

新潟市に次いで人口の多い長岡市や上越、三条両市で打越氏が5ポイント以上の差を付けて制したことも、勝利へと押し上げた。以前から野党系が比較的強いとされる加茂、見附、小千谷、五泉各市のほか、保守層が厚い田上町、弥彦村などでも塚田氏を大きく引き離した。

一方、塚田氏は出雲崎、津南両町、刈羽、関川両村など自民党支持層が多い町村部で10ポイント以上の差を付けたほか、聖籠、阿賀両町でも5ポイント以上リード。市部でも、県境に接する糸魚川、十日町、村上の各市や離島の佐渡市などでより多くの支持を得た。しかし、人口規模の大きい都市で打越氏に付けられた差を埋めることはできなかった。

県内首長「課題解決協力を」
塚田氏落選惜しむ声も

野党統一候補で無所属新人の打越さく良氏が参院選新潟選挙区で当選したことについて、県内自治体の首長からは22日、打越氏が国と県のパイプ役となり、県の課題を共に解決してほしいとの期待の声が相次いだ。一方、敗れた自民党現職の塚田一郎氏を支援した首長は落選を残念がった。

花角英世知事は「県選出の国会議員の役割は大変大きい。県の実情を理解し、さまざまな課題について国政の場で協力をお願いしたい」と期待を寄せた。

花角知事は自身の選挙で支援を受けた塚田氏を支持し、応援演説に立った。塚田氏の落選には「国政選挙なので、県政に直接影響はないと思うが、大変残念だ」と言葉少なだった。

自民党は1955年の結党以来初めて、参院新潟選挙区の議席を全て失った。元自民党参院議員で塚田氏を支援した中原八一新潟市長は「与党が議席を失ったことは大変残念だ。打越氏には県や国のために活躍してほしい」と話した。

参院選全体では与党側の勝利に終わった。県市長会長の久住時男見附市長は「現在の比較的政治が安定している状態を評価する結果になったのでは」とみる。県町村会長の小林則幸出雲崎町長も「県町村会としては小規模自治体が少子高齢化対策などに真剣に取り組んでいる姿勢を国に伝え、連携を深めて地方の課題に取り組んでいく」と語った。

2019年7月23日、24日『新潟日報』

参院選 新潟選挙区

4万票差の断面

〈上〉

共闘深化 息吹き返す

政党色抑えイメージ戦

参院選で全国屈指の注目区となった新潟選挙区（改選数1）は、野党統一候補で無所属新人の打越さく良氏(51)＝立憲民主、国民民主、共産、社民推薦＝が、自民党現職の塚田一郎氏(55)＝公明推薦＝を下し、初当選を果たした。野党勢力は昨年の知事選から続く連敗をストップ。自民党は半世紀以上維持してきた参院新潟選挙区の議席を全て失った。与野党の明暗を分けた約4万票差の断面に迫った。

野党

21日夜、テレビの選挙速報で打越氏の当確が伝えられた瞬間、野党関係者ら約200人が集まった会場は割れんばかりの歓声に包まれた。出馬表明から2カ月余りの県外出身の新人が、自民党現職に4万票以上の差で快勝。国民民主党の森裕子参院議員は打越氏と共に壇上に並び、「市民と野党の結集が深化したと確信した」とアピールした。

本県野党勢力は野党共闘態勢を敷いて臨んだ2017年衆院選の県内6小選挙区で「4勝2敗」と勝ち越した。しかし、野党系だった米山隆一前知事の辞職に伴う18年知事選で敗北。続く新潟市長選では分裂した保守陣営を相手に、野党統一候補が惨敗した。旧民進党系最大の支持団体である連合新潟の動員力低下、陣営に共産党が加わることへの一部からの反発―。今回の勝利は「3連敗阻止」を合言葉に、野党共闘が抱えるこうした課題を一定程度、解消した。

■ ■

「今回はしっかり応援しています」。連合新潟の牧野茂夫会長は14日に開かれたJR新潟駅前の街頭演説会で、打越氏のイメージカラーであるピンクの手袋をはめてマイクを握った。連合にとって参院選は比例代表に擁立した組織内候補の当選を目指す「3年に一度の通信簿」(牧野会長)。投票に行った組合員から「投票済証明書」を回収するなど乗効果を発揮した。

さらに、野党陣営は与野党対決を前面に打ち出して敗れた知事選を反省。勝敗の鍵を握る無党派層からの支持を得るため、政党色を抑える戦略を展開した。

打越さく良氏が当選確実となり、万歳する県内野党勢力の代表者たち＝21日、新潟市中央区

打越氏の街頭演説で政党名の書かれたのぼり旗などを掲示することを禁止した。県内野党最強の組織力を誇る共産党はこの方針に従い、黒子に徹した。党名は記さず消費税増税への反対などをアピールするビラを計90万枚近く作成。県内400の党支部をフル稼働して配布した。

選対本部長を務める立民の西村智奈美衆院議員（1区）に加え、本県野党勢力の象徴的存在ともいえる森氏と無所属の菊田真紀子衆院議員（4区）が「越後の3人娘」を名乗り、候補に帯同。「忖度」発言で印象が悪化した相手候補とは対照的に、清新さと華やかさを演出してみせた。

「政権に批判的な無党派だけでなく、保守的な無党派も取り込みたかった」と立民幹部。新潟日報社と共同通信社が21日に行った出口調査では、その狙い通り「支持政党なし」層の約65%に浸透した。

■ ■

3連敗を阻止したことで空中分解寸前だった野党共闘は息を吹き返した。だが年内の「同年選」もささやかれる衆院選に向け、視界が開けたわけではない。

元民進党県連代表だった2区の鷲尾英一郎衆院議員が自民党入り。2区に加え、5区も野党側の候補予定者は不在だ。

選対副本部長として各地を回った菊田氏は「衆院議員は一国一城のあるじ。城主のいない選挙区での戦いは難しかった」と活動の限界を指摘。喜びに沸く会場の中で、危機感を口にした。「空白区をどう埋めていくか、早急に話し合わなければいけない」

参院選 新潟選挙区

4万票差の断面

〈下〉

身内の醜聞で"自滅"

上げ潮一転 無党派敬遠

「勝利をつかめるはずだったが突然、週刊誌報道があった。最後の3日間で失速した。残念。本当に残念の極みだ」

参院選投開票日の21日夜、万歳会場となるはずだった新潟市内のホテル。3選を目指した自民党現職の塚田一郎氏の選挙対策本部長代行を務めた柄沢正三県議は、絞り出すような声で敗戦を分析した。

自民党の石崎徹衆院議員＝比例北陸信越＝の秘書暴行疑惑を週刊誌が報じた17日夜を境に、自陣営の雰囲気が一気に退潮したと関係者は声をそろえる。投票日まで、あと4日だった。

塚田氏は野党共闘候補に約4万2千票離された。そのうち半数以上を占める約2万5千票は新潟市で負けた。勝敗の鍵を握る無党派層が多く、石崎氏の地元選挙区でもあった。新潟日報社などの出口調査によると、野党候補は無党派層の約65%を獲得した。

自民

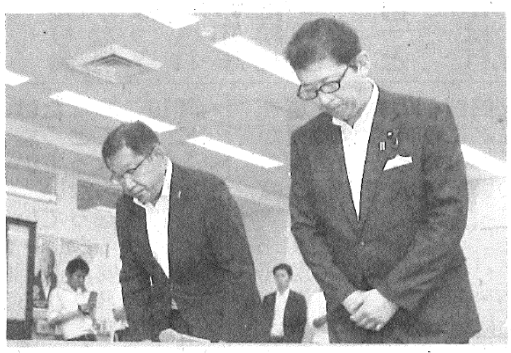
「身内にやられた。無党派が離れた」。完敗から一夜明けた22日、県連幹部は苦々しい顔つきで拳を握りしめた。

■ ■

塚田氏の道路整備を巡る「忖度」発言で劣勢を見込んだ陣営は選挙前、短期決戦の戦略を描いていた。公示日のぎりぎりまで県内の「おわび行脚」を続けて目立つ活動を控え、選挙戦で一気に露出を増やして浮上しようと考えた。選挙戦中盤に自民党が実施した世論調査では、相手候補とほぼ肩を並べていた。前回調査からの伸び率は全国一で、党本部も「新潟は勝てる」と踏んだ。

「問題発言で良くも悪くも知名度は上がった」と陣営幹部。相手は県外出身の無名候補ということもあり、短期間の勝負に懸けた。

戦略は的中したように見えた。



自民党県議団に敗戦をわびる塚田一郎氏（左）と県連会長の高鳥修一氏＝22日、県議会

党県連も動いた。16日午後には国会議員と県議を緊急招集して会議を開催。最終盤に向けて組織をさらに引き締めるよう号令をかけた。石崎氏も出席し、必勝を誓っていた。

しかし―。週刊誌報道が陣営の動きを止め、戦略を狂わせた。

■ ■

本県衆院議員の動きの鈍さも課題だった。

自民党の組織は本来、衆院議員をピラミッドの頂点に、小選挙区別に連なる県議や地方議員が手足となり、選挙戦の実動を担う。本県の場合、指揮を執る国会議員は当選回数が少なく、重鎮がそろう県議に比べて後援会組織も力も弱い。

関係者によると、1区の石崎氏は選挙戦終盤に「休養」し、5区の泉田裕彦氏は後援会が脆弱で動かす組織も人も整っていない。県連会長を務める6区の高鳥修一氏は農林水産副大臣の公務を理由に、そもそも地元入りが少なかった。4区は衆院議員が不在だ。

「国政選挙で国会議員が動かなければ、下は動くはずがない」。自民党本部の関係者は不満を漏らす。

本県では国政、地方を問わず、あらゆる選挙で野党共闘が功を奏している。2017年衆院選では、県内6小選挙区で自民党候補は2勝4敗と負け越した。

党県連幹事長の小野峯生県議は「候補本人をはじめ、国会議員や県連も含めて姿勢を正す。戦略も考え直さないといけない」と危機感を隠さなかった。

〔第３種郵便物認可〕

浮動票 明暗分ける

都市部で打越氏が大勝

大接戦が予想された参院選新潟選挙区（改選数1）では、野党統一候補で無所属新人の打越さく良氏(51)が、3選を目指した自民現職の塚田一郎氏(55)に4万2667票差で勝った。両氏の得票を分析すると、主に都市部の大票田で打越氏が票を伸ばしており、無党派層を中心にした浮動票を幅広く取り込んだことがうかがえる。

【南茂芽育】

2019 参院選

明暗を分けたのが、県都・新潟市だ。出身地である塚田氏の地盤とみられていたが、全区で打越氏が計2万5000票以上、塚田氏を上回った。

衆院新潟4区選出の野党系議員、菊田真紀子氏が地盤の秋葉区では約5200票差、塚田氏の地元・中央区でも約3600票差の大差で打越氏が勝った。野党候補が約2000票の僅差で自民候補に競り勝った前回参院選では、野党候補は中央区と西区で自民候補に計約8500票差で負けていただけに、新潟市の浮動票の動向が決め手の一つになった。

打越氏は長岡市でも約1万票、上越市でも約5000票差と、都市部で大差をつけて勝利。自民県連幹部は「今回は忖度発言の影響を払拭するため、身内固めを先行させた結果、浮動票固めが足りなかった」とうつむく。

一方、塚田氏は、東京電力柏崎刈羽原発が立地する柏崎市、刈羽村では打越氏を上回った。原発に関わる仕事に就く有権者が多く、「原発ゼロ」を明確に掲げた打越氏には票が流れなかったとみられる。旧民進党出身で、自民入りした鷲尾英一郎氏が地盤の新潟2区でもあり、鷲尾氏の入党が影響した可能性もある。

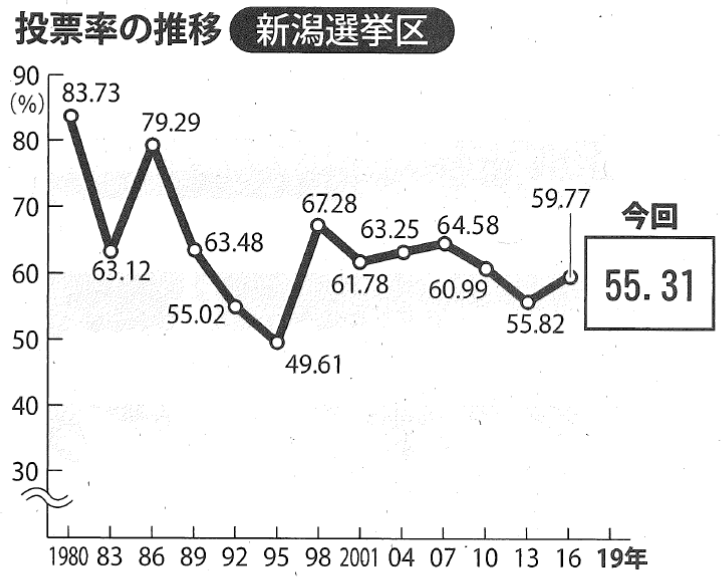
他にも、先月18日の新潟・山形地震で大きな被害を受け、安倍晋三首相が復興キャンペーンを約束した村上市を筆頭に、津南町など麻生太郎副総理兼財務相が訪れた農村部を含む郡部でも票を固めた。

ただし、塚田氏が県内の組織を固められたとは言いがたい。

支部長が決まっていない新潟4区では、三条市や加茂市、見附市で塚田氏の票が伸び悩んだ。後援会組織が固まっていない泉田裕彦氏が支部長の新潟5区でも、多くの市町で打越氏に競り負けた。

組織のほころびは、比例代表の得票数からも読み取れる。自民と公明の票を合計すると52万票余りになり、塚田氏の総得票数は4万票余り届かない。自民・公明支持層が一定程度、別候補に流れたことになる。

投票率55・31％ 4・46ポイント前回下回る



参院選新潟選挙区の投票率は55・31％で、2016年の前回選を4・46ポイント下回った。当日有権者数は191万9522人（男92万4985人、女99万4537人）。同日に市議選・村議選があった妙高市と関川村を除く28市町村で前回選を下回った。

全国的に投票率が下がる中、全国屈指の激戦区だった新潟選挙区では各陣営の選挙戦がヒートアップしたことで有権者の関心が一定程度集まり、前回選比の減少幅が全国平均（5・90ポイント減）より小さくなったとみられる。

期日前投票は36万1074人が利用。期日前投票率は18・75％と前回選を3・06ポイント上回り、過去最高を更新した。前回選よりも投票期間は1日短かったが、制度が浸透したことが要因とみられる。

【井口彩】

選挙違反の疑い 県警が24件警告

前回比20件減

21日投開票の参院選

新潟
NIIGATA
niigata@mainichi.co.jp

新潟支局
〒951-8106
新潟市中央区東大畑通1番町643
025(222)1515 FAX025(222)1517
長岡支局
0258(32)0906 FAX0258(30)1065
上越通信部 025(523)2566
南魚沼通信部 025(770)0655
柏崎通信部 0257(21)5900
広告は 025(222)1881
購読は 0120・468・012

中通	(223)0844	牡丹山	(273)7544
上所	(285)1646	寺尾	(269)2504
亀田	(381)4485	黒埼南	(362)6503
加茂	(52)0349	三条南	(46)8029
栃尾	(52)3236	長岡大手	(32)0749
新発田	(23)6544	五泉	(43)1110
新津	(22)2015	両津	(27)2345
佐和田西	(52)5021	小出	(792)7711
十日町東部	(752)2237	六日町	(772)7881
塩沢	(782)1550	上越東	(528)4046
春日山	(525)5613	上越木田	(526)7291

激戦の裏側㊤ 「よそ者感」払拭 4万票差勝利

共闘立て直し 支持固め

晴れやかな笑顔で道行く人に手を振る打越氏＝新潟市中央区東大通で

「ともにさく政治、誰ひとり取り残さない政治のため、全力を尽くします」。参院選新潟選挙区（改選数1）で初当選を果たした無所属新人の打越さく良氏(51)は当選から一夜明けた22日、JR新潟駅近くの交差点に立ち、晴れ晴れとした表情で通勤客らに手を振った。

「新潟生まれ、新潟育ち」で参院2期の実績がある自民現職の塚田一郎氏に対し、打越氏は出馬が今年5月と出遅れ、北海道出身で新潟に地縁はない。当初から陣営の間では「落下傘候補だ」との懸念が渦巻いた。

最大の課題である知名度不足を払拭するため、県外の大物応援弁士ではなく、あえて県選出の野党系国会議員を常に打越氏に同行させる「地上戦」を敢行。西村智奈美衆院議員（新潟1区）、菊田真紀子衆院議員(同4区)、森裕子参院議員の「越後の3人娘」と並ぶ様子を、演説やソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)で大々的にPR。「よそ者感をなくし、親近感を持たせる」（選対幹部）ことを徹底した。

西村氏は「中盤以降に雰囲気が良くなり、最終盤には非常にたくさんの方から声援をいただいている実感があった」と振り返る。ある選対幹部は、自民党本部の大物弁士が続々と来援した塚田氏を念頭に「相手が大物を呼べば呼ぶほど、こちらの『親近感のある候補』が際立っていく。こちらの思うつぼだった」

陣営がもう一つ課題としていたのが、昨年の知事選、新潟市長選と相次いで敗れた野党共闘の立て直しだ。

知事選では、立憲や連合新潟から「政策の違う共産党と一緒に選挙をやるのは無理だ」との声が出て内部分裂。新潟市長選でも同じ理由で「旧民進系と連合」「共産や社民」が別々に選対を組んだ。結局、内部の組織票が固めきれず、野党共闘は自民候補に2連敗した。陣営幹部は「3連敗すれば今後、野党共闘が機能しなくなるかもしれない」と危機感をあらわにした。「なんとなく共闘しただけではこの厳しい戦いを勝ち抜けない」。6月上旬の選対発足式で、森氏は発破をかけた。

その反省を踏まえ、今回は共産を含む推薦4党と連合などの支援団体が選対組織で共に戦略を話し合うことにした。ある野党の県幹部は「共産党と連合が同じ選対の部屋にいるなんて全国でも新潟くらいだ」と驚きを込めて話す。打越氏の演説中も一緒に並び、共闘態勢をアピール。「原発ゼロ」や消費増税反対など、争点政策をすりあわせたことで内部分裂を未然に防ぎ、労組など各党の支持団体の票をきっちりと固めた。

更に、塚田氏の「忖度」発言への批判も続け、安倍政権への批判票や自民・公明の一部支持層も獲得。陣営は「接戦になることは間違いない」と見込んでいたが、実際は約4万票差をつけて塚田氏に勝利した。西村氏も「投票率が下がった中でこの数字は想定していなかった」と驚きを隠さなかった。

今後、注目が集まるのは、無所属の打越氏がどの党や会派で議員活動を進めるかだ。打越氏本人は22日「支えてくださった方と相談して決めたい」と言葉を濁したが、立憲県連代表の西村氏は「私としては一緒の党でぜひ活動したいと思っている」と秋波を送る。

だが、ある野党県幹部は、打越氏が無所属で出馬したことで党派色が薄れ、共闘が成功した側面もある、と指摘。「無所属候補が突然立憲に入ると言えば、一般の人には違和感がある」とくぎを刺す。「きちんと話し合った上で今後のことを決めなければ、だめだ。野党共闘はまだまだ、もろい」

【井口彩】

× ×

参院選新潟選挙区（改選数1）では、野党統一候補の新人、打越氏が、3選を目指した自民現職の塚田氏らを破って初当選した。全国屈指の激戦区で何が明暗を分けたのかを追う。

ウチの場合は
森下裕美

(4885)

激戦の裏側㊦ 「忖度」以外にも敗因

強固な保守地盤崩壊か

2019 参院選

「私自身の発言によりマイナスからのスタートとなった。結果は全て私の責任です」。参院選新潟選挙区（改選数1）で落選した自民現職の塚田一郎氏(55)は一夜明けた22日、自民党県議団の会合で改めて頭を下げた。自らの失言でかつてない逆風にさらされ、保守地盤を固められなかった。県連幹事長の小野峯生県議は「組織をまとめようと努力はしたが、成果が表れなかった」と下を向いた。

全ては4月の「忖度（そんたく）」発言から始まった。麻生太郎副総理兼財務相の中選挙区時代の地盤の北九州市と、安倍晋三首相の地元・山口県下関市を結ぶ道路建設計画を巡って利益誘導した、とも取れる失言に内部からも大きな批判が起こり、塚田氏は副国交相と県連会長を辞任。「もう負け戦。皆に自ら応援しない理由を提供したようなものだ」とあきらめ顔の県連幹部もいた。

街頭演説では菅官房長官（右）ら大物が連日応援入りした＝新発田市で17日

事態を重く見た党本部は公示後、安倍氏、麻生氏、菅義偉官房長官の「トップ3」が2回ずつ来県する異例の選挙戦を展開。「大物」の人気でマイナスイメージをカバーし、国とのパイプを強調する作戦だった。6月の新潟・山形地震を踏まえた防災・復興策や、佐渡金銀山の世界遺産登録推進、コメだけに頼らず果樹などの園芸作物にシフトする「稼げる農業」の推進など、地域活性化策を具体的にPR。花角英世知事も、昨年の知事選で塚田氏から応援を受けた「恩返し」として何度も街頭演説に立ち「国にしか解決できない課題もある。塚田さんと一緒に仕事がしたい」とエールを送った。

失言の影響をこの選挙で食い止めなければいけない事情もあった。「ここで負ければ、次の参院選で再び塚田氏を立てることになる」（党本部関係者）。次回参院選の野党候補は、県内に地盤を持ち、前回参院選で自民候補に約2000票差で競り勝った森裕子氏。「落下傘（らっかさん）」の新人、打越さく良氏より、さらに厳しい戦いを強いられると見たためだ。

だが結果は、前回参院選の自民候補より8万票弱も減らした。県議会での質問回数問題を巡って自民党への批判を強めていた公明党の支持層が一部離れたほか、新潟市や長岡市などの都市部で大敗。小野氏は「組織票固めを優先した結果、無党派層の取り込みがうまくいかなかった」と唇をかんだ。

「忖度」だけが敗因ではない、との見方もある。自民党員が2人出馬し保守分裂した昨年10月の新潟市長選。塚田氏は当時県連会長でありながら、どちらの応援も積極的に行わず「誰からも嫌われないように日和見している」と批判を受けた。塚田氏は失言から約2カ月半かけて県内各支部を回る「おわび行脚」を行ったが、ある県議は「元々塚田氏には愛想を尽かしていた人も多い。謝られて『じゃあ頑張ろう』とはならない」と眉をひそめる。

塚田氏と同じ新潟市を地盤にする同党新潟1区支部長の石崎徹衆院議員の暴行問題が、投開票日の3日前に週刊新潮に報じられ、事態はさらに悪化した。前県連幹事長の柄沢正三県議は「一番盛り上がるべき最後の3日間で失速してしまった」と肩を落とす。

敗因のなすりつけあいも起きた。落選の知らせを受けて頭を下げる塚田氏の隣に、県連会長の高鳥修一衆院議員（新潟6区）の姿はなく、会場からは「おかしいよ」と声が飛んだ。副農林水産相を務める高鳥氏は5月の県連大会時から「公務で新潟入りできない日がある」とあらかじめ「予防線」を張っており、顔を出した22日にも「代わりに6区の県議らがカバーしてくれた」と釈明。地元のある県議は「負けた時の言い訳をするようなものだ」と批判した。

塚田氏の敗北は、自民が参院の全議席を失っただけにとどまらず、強固な保守組織や地盤そのものが崩壊しつつあることも示唆した。ある陣営関係者はため息交じりに語る。「最後まで『自分たちは勝てる』というおごりが消えなかった結果だ」　【南茂芽育】

打越氏に無党派層7割

出口調査 公明支持層も4割強

参院選投票日の21日、朝日新聞社は全国の投票所で出口調査を行った。その結果によると、新潟選挙区で初当選した無所属新顔の打越さく良氏は、野党各党の支持層から厚い支持を得たのに加えて、無党派層の約7割、落選した自民現職の塚田一郎氏を推薦した公明の支持層からも4割強の支持を受けていた。

調査に応じた人の支持政党の割合は、自民45％、立憲民主16％、共産5％、公明と国民民主と社民が各3％、維新とれいわが2％など。「支持政党なし」と「わからない」を合わせた無党派層は19％だった。

支持政党別に打越氏への支持度合いをみると、打越氏を推薦した野党4党では立憲支持層が95％に上り、ほかにも国民81％、共産90％、社民92％と高い割合だった。無党派層の支持も67％に上ったほか、公明支持層も45％だった。

一方、塚田氏は自民支持層の80％を固めたが、公明支持層は48％、無党派層は25％の支持にとどまった。

年齢別では、30代で塚田氏の支持が多かったが、それ以外の年代では同程度か打越氏の支持が多かった。中でも60代は58％が打越氏を支持したのに対し、塚田氏は39％にとどまった。

◇

調査では安倍晋三政権についても尋ねた。

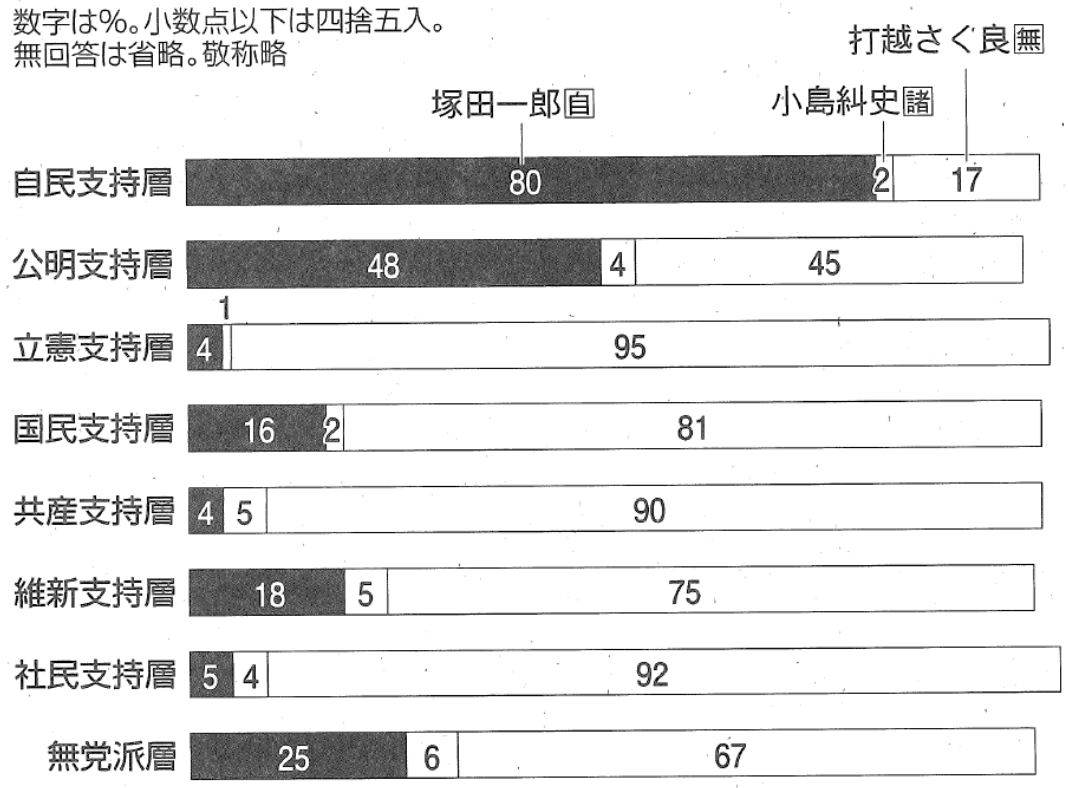
年金など老後の不安への政権の対応を四択で問うと、「大いに評価する」12％、「ある程度評価する」37％、「あまり評価しない」30％、「全く評価しない」12％（無回答を除く）。「大いに」と「ある程度」を合わせた「評価する」は、自民支持層が70％だったのに対し、無党派層は26％、立憲支持層は34％にとどまった。

安倍政権のもとでの憲法改正については、「賛成」43％、「反対」47％。「賛成」は自民支持層の68％、公明支持層の54％、立憲支持層の14％、無党派層の27％。「反対」は立憲支持層の76％、共産支持層の80％、自民支持層の22％、公明支持層の37％、無党派層の62％だった。

調査は県内の90カ所で行い、4366人から有効回答を得た。（高浜行人）

新潟県 各党支持層はだれに投票したか

数字は％。小数点以下は四捨五入。
無回答は省略。敬称略

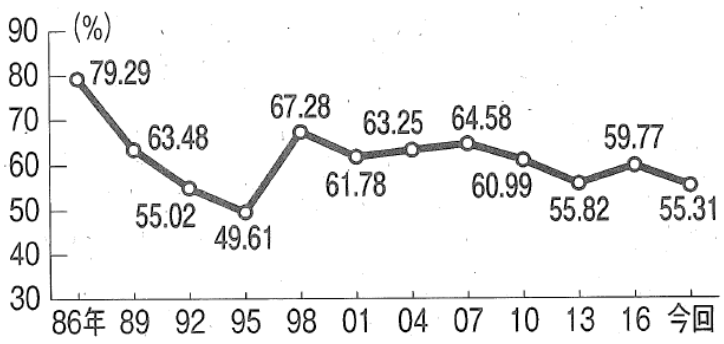


選挙疲れか 投票率4.46ポイント低下

参院選新潟選挙区（改選数1）の投票率は55・31％で、前回を4・46ポイント下回った。60％を切るのは3回連続となり、近年続いている低水準の傾向が変わらなかった。県選挙管理委員会の担当者は「要因ははっきりしないが、低投票率は全国的な傾向。4月には統一地方選もあり、有権者に選挙疲れがあったかもしれない」と話した。

21日の投票をめぐっては、燕市と南魚沼市で、比例代表の投票用紙を1人の有権者に2枚交付するミスがあった。県選管が発表した。残った投票用紙の枚数を投票所で確認した際、比例代表のものが選挙区のものより1枚少なかったため、ミスが発覚した。実際に投票されたかは不明だが、もし2枚とも投票されていた場合、いずれも有効票として扱われるという。

参院選 新潟選挙区の投票率



候補者の県内得票（上位50人、特定枠候補除く）

自民	29,238	当	石川 大我	立憲	2,269	当
自民	22,513	当	山東 昭子	自民	2,229	当
公明	16,567	当	比嘉奈津美	自民	1,993	
れい	14,040		井上 哲士	共産	1,907	当
自民	8,031	当	礒崎 哲史	国民	1,882	当
自民	8,008	当	赤池 誠章	自民	1,822	当

打越氏 野党共闘が機能

激戦を振り返る

2019 参院選

参院選新潟選挙区（改選数1）での無所属新顔、打越さく良氏（51）の初当選は、打越氏を推した野党側にとって、昨年からの与党系候補に対する連敗を止める勝利となった。次の衆院選をにらみ、態勢整備の必要性を指摘する意見が上がっている。

初当選した打越さく良氏（中央）を祝福する、（左から）菊田真紀子、森ゆうこ、西村智奈美、黒岩宇洋の各議員＝21日、新潟市中央区、山本裕之撮影

足並みの乱れ避け連敗止める

「皆様の支援のおかげで勝利することができた。期待に応えられるよう全力をつくします」。打越氏は22日朝、新潟市中心部で街頭に立ち、通行人に手を振りながら抱負を語った。並んだ選挙対策本部長の西村智奈美衆院議員（立憲民主）は「それぞれの政党や団体が100％の力を発揮しなければ、勝てなかった」と激戦を振り返った。

立憲と国民民主、共産、社民の各党や労働組合の連合新潟が推薦する野党共闘態勢で臨んだ選挙戦。昨年の知事選や新潟市長選で野党共闘の候補は連敗しており、この参院選は野党にとって「絶対に負けられない、崖っぷちの選挙」（陣営幹部）だった。

初当選から一夜明け、西村衆院議員（右）と街頭に立った打越氏＝22日朝、新潟市中央区東大通2丁目

原発政策での立ち位置の違いなどから足並みが乱れた過去の教訓を踏まえ、陣営は連合新潟と事前調整を重ねた。連合新潟を通じて傘下の地域労組にこまめに投票呼びかけを依頼。連合新潟の牧野茂夫会長も積極的に街頭に立ち、打越氏の支持を訴えた。各党の党名が入ったプラカードや垂れ幕の使用を控え、党派色を抑えることでも連携をアピールした。

新潟市以外の29市町村と新潟市内8区の計37カ所の開票結果をみると、打越氏の得票は22カ所で塚田氏を上回った。昨年の知事選で野党系候補は与党系候補に26カ所で敗れており、今回は広い地域で逆転できた。同じ参院選で3年前に約2千票差の激戦を制した森ゆうこ参院議員（国民）は、「（3年前の参院選から）積み上げてきて頂いた結集の強さが、また一段と進化した」と語った。

野党側にとって、この勢いを次の衆院選に生かせるかが課題だ。

17年の前回衆院選では、県内6小選挙区のうち四つで野党系候補が勝ったが、そのうち新潟2区（燕市、柏崎市など）では鷲尾英一郎衆院議員が自民に移った。また、衆院選で自民候補に敗れた同5区（長岡市など）は野党系候補が未定で、同6区（上越市など）も立憲の風間直樹参院議員がくら替えする意向を示したが、方針は定まらない。

立憲会派の無所属、菊田真紀子衆院議員（同4区）は「勝利の余韻があるうちに小選挙区ごとに候補を絞り込んだり準備を急がないといけない」と話す。

野党系候補を支援する市民連合@新潟の佐々木寛共同代表は「相手候補の忖度発言などの敵失も勝因の一つ。無党派層に十分に響く争点を掲げられたとは言えない」と冷静に分析する。「次の衆院選までの時間をかけて、有権者が振り向いてくれるような包括的な社会像やエネルギー政策を、市民や研究者を巻き込んで作りあげていくべきだ」と指摘した。（高木真也）

２０１９年７月２３日『読売新聞』

（日曜）　読　売　新　聞　（第３種郵便物認可）

検証 参院選 2019 ㊤

親近感 地元議員が支え

参院選新潟選挙区（改選定数1）は、事実上の与野党一騎打ちとなり、新人で野党統一候補の弁護士、打越さく良氏(51)が激しい選挙戦を制した。各党の戦いを振り返る。

街頭演説で、菊田衆院議員（左）、森参院議員（同２人目）、西村衆院議員（右）の応援を受ける打越氏（７日、新潟市東区で）

野党

「負ければ次はない。強い危機感があった」

21日夜、打越氏の勝利が決定的となると、高揚感が漂う新潟市中央区のホテルで、「野党共闘」の一翼を担った菊田真紀子衆院議員（無所属）は安堵の表情を見せていた。

各党の思惑が優先され、選挙対策本部が分裂して苦杯を喫した2018年の知事選と新潟市長選。教訓を生かし、立憲民主、国民民主、共産、社民と政策や主張が異なる組織同士が、それぞれを尊重して歩調を合わせた。

「脱原発」を前面に出さず、電力系の労働組合を抱えている連合新潟からも積極的な支援を受けた。政党色を抑えて無党派層への浸透を図るため、集会などでのプラカード掲示も各党が自粛した。共産党県委員会の樋渡士自夫委員長は「共闘関係を維持するため、まとまって動く雰囲気が醸成された」。

17日間の選挙期間中、街頭演説では選対本部長の西村智奈美衆院議員（立民）、菊田衆院議員、森裕子参院議員（国民）が必ずのように脇を固めた。演説内容、マイクの握り方から立ち居振る舞いまで細かく助言した。政治経験のない打越氏は「尊敬する先輩議員に支えられた」と感謝する。

安倍首相、菅官房長官ら政府・与党の重鎮の応援を受けて、2期12年の実績と地元出身をアピールした自民党の塚田一郎氏(55)に対し、打越陣営は土着性のある国会議員が支援している姿を見せる戦略に徹し、北海道出身の打越氏の「落下傘候補」のイメージ払拭に奏功した。選対幹部は「必要だったのは親近感。地元の『越後3人娘』が支えたことで、有権者も安心できたと思う」と言う。

激戦を通し、打越氏は議席の獲得とともに、地元国会議員との強いパイプも築いた。参院選新潟選挙区は野党系議員2人で占める。「越後3人娘の長女」を自任する森参院議員は「それぞれの立場を尊重し、みんながら力を発揮できた。次の選挙にもつながる」と手応えをつかむ。今後の県政界や選挙を左右しそうだ。

ただ、次の国政選となる衆院選に向けては新潟2、5、6区の候補者調整には課題もある。野党共闘の勢いは続くのか、戦いはこれからだ。

選挙区確定票　改選定数１―候補３

□印は法定得票＝繰り上げ当選資格＝を得た者。白抜き数字は当選回数

当	521,717	打越さく良	51	無新❶
□	479,050	塚田　一郎	55	自現
	32,628	小島　糾史	43	諸新

党派の略称は、自＝自民、諸＝諸派、無＝無所属

「いただいた支援 応える」

打越氏 一夜明け抱負

参院選の新潟選挙区で、初当選した弁護士の打越さく良氏(51)は一夜明けた22日、新潟市内でマイクを握り、「いただいた支援に応えて、弱い人たちが切り捨てられない政治を目指したい」と抱負を語った。

打越氏は午前7時半からJR新潟駅前で、選挙対策本部長を務めた西村智奈美衆院議員（立憲民主）と街頭に立つと、通勤や通学中の市民に手を振った。支持団体へのあいさつ回りなども精力的にこなした。

2時間ほどしか寝られなかったという打越氏だったが、「気持ちが高揚していて疲れていない」と笑顔で話し、「謙虚に耳を傾けて声を上げにくい人々に寄り添う政治家になりたい」と力を込めた。

西村衆院議員も「支援政党、支援団体に100％の力を発揮していただいた。僅差になると思っていたので、ほっとしている」と激戦を振り返った。

無党派層 7割弱が打越氏

推薦各党の支持層に浸透

読売新聞社と日本テレビ系列各局が共同で実施した出口調査によると、新潟選挙区（改選定数1）では、無党派層の7割弱が、野党統一候補で無所属新人の打越さく良氏(51)に投票した。自民現職の塚田一郎氏(55)に投票した無党派層は3割弱にとどまった。

打越氏は推薦を受けた野党各党の支持層に浸透。立憲民主、共産、社民支持層のそれぞれ9割超、国民民主支持層の8割弱の支持を固めた。年代別でみると50～70歳代がいずれも5割超、10～30歳代は4割前後から支持を集めた。

塚田氏は自民支持層の8割弱を固めたが、推薦を受けた公明支持層は6割ほどにとどまった。年代別では、10～40歳代で5割前後と若い世代の支持が高かった。

政策で「消費増税」を重視した人の7割弱が打越氏、3割弱が塚田氏を支持した。「憲法改正」では6割半ばが打越氏、3割強が塚田氏に投票した。

安倍内閣については「支

比例選 県内開票結果

党名の下は県内での総得票数（カッコ内は全政党比の得票率）。白抜き数字は当選回数。政党の並び順は新勢力順。同数の場合は全国での得票順

※特定枠（自民２人、れいわ２人、労働者１人）に対する投票は、党名票として扱われるため掲載していない

自民

439,253（43.73%）

318,083 党名票

当	29,238	佐藤　信秋	❸	現
当	22,513	柘植　芳文	❷	現
当	8,031	山田　俊男	❸	現
当	8,008	山田　太郎	❷	元
当	5,063	宮崎　雅夫	❶	新
当	4,412	有村　治子	❹	現
当	3,996	石田　昌宏	❷	現
当	3,909	和田　政宗	❷	現
当	3,796	宮本　周司	❷	現
当	2,911	北村　経夫	❷	現
当	2,903	橋本　聖子	❺	現
当	2,712	佐藤　正久	❸	現
当	2,522	本田　顕子	❶	新
当	2,229	山東　昭子	❽	現
	1,993	比嘉奈津美		新
当	1,822	赤池　誠章	❷	現
	1,704	田中　昌史		新
	1,649	井上　義行		元
	1,514	尾立　源幸		元
	1,398	小川　眞史		新
	1,388	中田　宏		新
当	1,210	羽生田　俊	❷	現
当	1,208	衛藤　晟一	❸	現
	1,022	山本　左近		新
	917	木村　義雄		現
	742	角田　充由		新
	648	丸山　和也		現
	550	水口　尚人		新
	539	糸川　正晃		新
	389	熊田　篤嗣		新
	226	森本　勝也		新

立民

202,890（20.20%）

178,696 党名票

当	5,944	小沢　雅仁	❶	新
当	3,572	水岡　俊一	❸	元
当	2,811	吉川　沙織	❸	現
当	2,269	石川　大我	❶	新
当	1,609	川田　龍平	❸	現
当	1,508	須藤　元気	❶	新
	1,272	市井紗耶香		新
当	904	森屋　隆	❶	新
	664	佐藤　香		新
	600	おしどりマコ		新
	557	若林　智子		新
	461	奥村　政佳		新
	419	藤田　幸久		現
	312	斉藤　里恵		新
	284	今泉　真緒		新
	251	真野　哲		新
当	213	岸　真紀子	❶	新
	155	中村　起子		新
	137	小俣　一平		新
	114	白沢　みき		新
	98	塩見　俊次		新
	38	深貝　亨		新

公明

82,554（8.22%）

64,434 党名票

当	16,567	平木　大作	❷	現
当	574	若松　謙維	❷	現
当	233	山本　香苗	❹	現
当	215	山本　博司	❸	現
当	180	新妻　秀規	❷	現
当	86	河野　義博	❷	現
	69	角田健一郎		新
当	35	塩田　博昭	❶	新
	35	竹島　正人		新
	31	奈良　直記		新
	23	高橋　次郎		新
	23	藤井　伸城		新
	14	坂本　道応		新
	11	村中　克也		新
	10	塩崎　剛		新
	9	西田　義光		新
	4	国分　隆作		新

国民

61,633（6.14%）

35,663 党名票

当	6,410	浜野　喜史	❷	現
当	6,358	田村　麻美	❶	新
	4,720	田中　久弥		新
	2,788	大島九州男		現
	2,648	石上　俊雄		現
当	1,882	礒崎　哲史	❷	現
	366	山下　容子		新
	337	円　より子		元
	236	姫井由美子		元
	106	小山田経子		新
	41	鈴木　覚		新
	39	中沢　健		新
	24	酒井　亮介		新

維新

50,280（5.01%）

46,429 党名票

当	1,351	鈴木　宗男	❶	新
当	508	室井　邦彦	❸	現
	500	山口　和之		現
	377	藤巻　健史		現
	211	森口あゆみ		新
	197	串田　久子		新
当	163	柴田　巧	❷	元
	159	桑原久美子		新
当	98	柳ヶ瀬裕文	❶	新
	91	奥田　真理		新
	64	荒木　大樹		新
	58	岩渕美智子		新
当	55	梅村　聡	❷	元
	18	空本　誠喜		新

共産

67,342（6.70%）

63,083 党名票

当	1,907	井上　哲士	❹	現
当	1,506	小池　晃	❹	現
	288	山本　訓子		新
当	124	山下　芳生	❹	現
当	87	紙　智子	❹	現
	59	山本千代子		新
	36	梅村早江子		新
	32	有坂ちひろ		新
	30	佐藤ちひろ		新
	24	椎葉　寿幸		新
	23	仁比　聡平		現
	22	田辺　健一		新
	21	原　純子		新
	20	舩山　由美		新
	17	伊藤理智子		新
	11	青山　了介		新
	11	小久保剛志		新
	8	大野　聖美		新
	6	藤本　友里		新
	6	松崎　真琴		新
	4	鎌野　祥二		新
	4	下奥　奈歩		新
	3	伊藤　達也		新
	3	島袋　恵祐		新
	3	沼上　徳光		新
	1	住寄　聡美		新

れいわ

41,038（4.09%）

23,298 党名票

	14,040	山本　太郎		現
	3,030	蓮池　透		新
	338	大西　恒樹		新
	103	辻村　千尋		新
	95	渡辺　照子		新
	81	安冨　歩		新
	51	三井　義文		新

社民

34,698（3.45%）

27,014 党名票

当	6,237	吉田　忠智	❷	元
	1,036	仲村　未央		新
	281	矢野　敦子		新
	130	大椿　裕子		新

N国

13,422（1.34%）

11,830 党名票

当	1,414	立花　孝志	❶	新
	119	浜田　聡		新
	29	岡本　介伸		新
	29	熊丸　英治		新

安楽会

3,301（0.33%）

2,876 党名票

	425	佐野　秀光	新

幸福

3,772（0.38%）

3,088 党名票

	580	釈　量子	新
	77	及川　幸久	新
	27	松島　弘典	新

オリーブ

3,058（0.30%）

2,725 党名票

	125	黒川　敦彦	新
	124	若林　亜紀	新
	46	天木　直人	新
	38	小川　学	新

労働者

1,192（0.12%）

885 党名票

	247	林　紘義	新
	46	吉村二三男	新
	14	菊池　里志	新

参院選比例代表 主な組織代表の結果

※敬称略。立憲民主、国民民主両党の前回は民進党、前々回は民主党

	主な団体	今回（令和元年）	前回（平成28年）	前々回（25年）
自民党	全国郵便局長会	当 柘植 芳文 60万0189	当 52万1060	当 42万9002
	日本建設業連合会など	当 佐藤 信秋 23万2548	当 29万3735	当 21万5506
	全国農政連	当 山田 俊男 21万7619	当 23万6119	当 33万8485
	全国商工政治連盟など	当 宮本 周司 20万2122	8万5355	当 17万8480
	日本看護連盟	当 石田 昌宏 18万9893	当 17万7810	当 20万1109
	日本薬剤師連盟	当 本田 顕子 15万9596	当 14万2132	——
	日本医師連盟	当 羽生田 俊 15万2807	当 21万0562	当 24万9818
	全国土地改良政治連盟	当 宮崎 雅夫 13万7502	当 18万2467	——
	日本理学療法士連盟	田中 昌史 10万0005	当 13万0101	——
立憲民主党	自治労	当 岸 真紀子 15万7848	当 18万4187	当 23万5636
	日教組	当 水岡 俊一 14万8309	当 17万6683	当 17万6290
	JP労組	当 小沢 雅仁 14万4751	当 19万1823	12万0782
	情報労連	当 吉川 沙織 14万3472	当 17万1486	当 16万7437
	私鉄総連	当 森屋 隆 10万4339	10万2208	——
国民民主党	UAゼンセン	当 田村 麻美 26万0324	当 19万6023	13万8830
	自動車総連	当 礒崎 哲史 25万8507	当 26万6623	当 27万1553
	電力総連	当 浜野 喜史 25万6928	当 27万0285	当 23万5917
	電機連合	石上 俊雄 19万2586	当 21万5823	当 15万2121
	JAM	田中 久弥 14万3467	11万2995	——
	基幹労連	——（田中を支援）	10万8522	10万3996

で、気迫に満ちた表情を間近に見ることができる。このほか、同地方にある徳一ゆかりの寺院に伝わる仏教美術の名品30点も展示して

安全運転に尽力 27事業所を表彰

過去1年間、従業員による交通事故がなく、交通違反の割合も低かったとして、県警と自動車安全運転センター県事務所は、県内27事業所を1～4月期の優秀安全運転事業所に選んだ。事故防止の意識を高めて

比例選 県内の党派別得票数・率

	個人票	党名票	合計	2016年
自民	121,170(27.59)	318,083(72.41)	439,253(43.73)	486,404(43.66)
立民	24,194(11.92)	178,696(88.08)	202,890(20.20)	— —
公明	18,120(21.95)	64,434(78.05)	82,554(8.22)	92,178(8.27)
国民	25,970(42.14)	35,663(57.86)	61,633(6.14)	— —
維新	3,851(7.66)	46,429(92.34)	50,280(5.01)	— —
共産	4,259(6.32)	63,083(93.68)	67,342(6.70)	89,086(8.00)
れいわ	17,739(43.23)	23,298(56.77)	41,038(4.09)	— —
社民	7,684(22.15)	27,014(77.85)	34,698(3.45)	41,868(3.76)
N国	1,592(11.86)	11,830(88.14)	13,422(1.34)	— —
安楽会	425(12.87)	2,876(87.13)	3,301(0.33)	— —
幸福	684(18.13)	3,088(81.87)	3,772(0.38)	7,838(0.70)
オリーブ	333(10.89)	2,725(89.11)	3,058(0.30)	— —
労働者	307(25.76)	885(74.24)	1,192(0.12)	— —

（カッコ内の得票率（単位%）は、個人票と党名票は政党ごとの県内合計得票に占める割合。合

参院選戦いの跡

衆院県内6選挙区での争いは

21日に投開票された参院選の新潟選挙区（改選数1）では、約52万2千票を獲得した野党統一候補で無所属新人の打越さく良氏（51）が、約47万9千票を得た自民党現職の塚田一郎氏（55）らを破り、初当選した。衆院の「年内解散」という臆測もささやかれる中、今回の参院選は安倍政権だけでなく、県内の衆院議員らにとっても「中間テスト」のような位置付けだった。県内の6小選挙区で立候補を予定する衆院議員や、支持する地方議員、組織が今回どう動いたのか。激戦となった選挙戦を衆院小選挙区ごとに振り返る。

表の見方

候補者名の後の数値は得票数。かっこ内は得票率。「○区エリア」のタイトル脇に列記した市町村と新潟市行政区における得票数を合算した。複数の衆院小選挙区にまたがる市町村や区もあるため、実際の小選挙区のエリアとは完全に一致しない。

立民、連合がフル回転

自民 石崎氏問題で影響か

1区

1区選出で立憲民主党の西村智奈美衆院議員は、打越氏の選対本部長を務めた。野党系国会議員が不在の地域をはじめ、全県を回っていたため、1区内での得票を不安視する声が一部であった。しかし、立民の県議や市議、打越氏を推薦した連合新潟などがこれまで以上ともされる運動量でカバーした。

最終盤には、打越氏と西村氏で1区内をくまなく回り、街頭演説を展開して、無党派層の取り込みを図った。新潟市の中央や西、東の各区でいずれも数千票規模の差を付けて完勝した。

塚田陣営は、自民党で地元の石崎徹衆院議員＝比例北陸信越＝や県議、市議を中心に保守票の引き締めを図っていた。しかし、最終盤で石崎氏の元秘書への暴行疑惑が発覚。石崎氏の活動が止まっただけではなく、無党派層や一部の保守層の投票行動に影響したとみられ、票を落とした。

1区エリア（新潟市中央区、東区、西区）

打越さく良氏	102,790(51.79)
塚田　一郎氏	88,797(44.74)

※衆院2区の一部を含む。新潟市北、江南各区の一部地区を除く

打越さく良氏のマイク納めでエールを送る野党系国会議員ら＝新潟市中央区

塚田一郎氏の街頭演説に駆け付けた自民党の衆院議員ら＝燕市

野党 各地選対が機能

自民 衆院2氏支援及ばず

2区

2区は自民党が強いとされるが、長岡市の旧三島郡地域などを除いたエリアで打越氏が千票余りの差を付けて塚田氏をかわした。

打越氏を支えた野党側は、元民進党県連代表の鷲尾英一郎衆院議員が自民入りし、2区全体をまとめる国会議員が不在だった。このため県議らをトップに燕・弥彦、柏崎など4地区に選対を設置。連合地協や立正佼成会からも人が入り、電話作戦や連日の街頭活動を徹底した。

街頭演説には森裕子参院議員（国民）ら県関係の野党系国会議員が登場し、2区の国会議員不在をカバーした。燕市、新潟市西蒲区、弥彦村で塚田氏を上回り、柏崎市でも競った。

2区エリア（燕、柏崎、佐渡各市、新潟市西蒲区、出雲崎町、弥彦、刈羽各村）

打越さく良氏	67,962(48.84)
塚田　一郎氏	66,755(47.97)

※新潟市南、西各区、長岡市の一部地区を除く

黒岩氏 活動強め逆転

与党 地道な組織戦実らず

3区

打越氏が新潟市北区や新発田市、五泉市といった野党系が強い地域でリードし、3区エリア全体を小差で制した。当初は劣勢との見方が強かったが、地元の黒岩宇洋衆院議員をはじめ、危機感を募らせた県議、市議らが組織をフル稼働させたことで盛り返した。

2017年衆院選で50票差と薄氷の勝利だった黒岩氏は自身の後援会幹部へのあいさつ回りを徹底。3区で塚田氏優勢との情報に奮起して活動を強化したことが功を奏し、新潟市北区、五泉市でリードを奪った。3区は農村部を多く抱えるため、打越氏が訴えた「農家の戸別所得補償制度の復活」が一定程度、支持を広げたとみられる。

塚田陣営は黒岩氏に連敗し、後がない斎藤洋明衆院議員を中心に地道な組織戦を展開。衆院選で黒岩氏に約2千票差を付けられた新発田市での活動を強化したものの、今回も約千票及ばなかった。

3区エリア（村上、胎内、新発田、阿賀野、五泉各市、新潟市北区、聖籠、阿賀各町、関川、粟島浦各村）

打越さく良氏	86,424(48.84)
塚田　一郎氏	85,205(48.15)

※衆院1、4区の一部を含む。新潟市北区の一部地区を除く

菊田氏 組織力を発揮

自民 空白区 広がりに欠く

4区

主要な行政区全てで打越氏が塚田氏を上回り、両氏の得票率の差は8㌽超と県内小選挙区エリアで最も開いた。

打越陣営は選対副本部長を務めた菊田真紀子衆院議員の地盤で組織力を発揮。塚田陣営は自民党国会議員がいない県内唯一の空白区だったことも響いた。

2017年の衆院選以降、菊田氏は選挙のたびに野党間の連携を深めてきた。今回も後援会や野党関係組織を積極的に動かし、自らも電話かけや支持者回りを行うなど、支持固めを徹底。4月の県議選で野党系新人を積極的に擁立して自民候補と戦ったことも、各地の運動を活性化させた。

一方、自民は国会議員が不在の中、その候補として国定勇人三条市長と新潟市秋葉区出身の栗原洋志氏を選考している最中だった。県議や市議が各地で軸となって活動を支えた。国定、栗原両氏も各地盤で塚田氏をもり立てたものの、全体的な広がりに欠けた。

4区エリア（三条、加茂、見附各市、新潟市江南、秋葉、南各区、田上町）

打越さく良氏	85,718(52.77)
塚田　一郎氏	71,661(44.11)

※衆院1、2区の一部を含む。長岡市、新潟市北区の一部地区を除く

野党 共闘態勢が結実

与党系 地盤沈下に深刻さ

5区

大票田の長岡市をはじめ、全ての市町で打越氏が勝利を収めた。2016年の参院選、18年の知事選でも多くの市町で勝利してきた野党の共闘態勢が結実した。一方で与党系の地盤沈下は深刻だ。

長岡市では、16年参院選で2千票余りの差で自民候補を破った森裕子氏（国民）が「長岡の票で最後に逆転した」と繰り返し強調し、一体感の醸成を図った。立民の枝野幸男代表も長岡入りして演説し、市全体で9430票差を付けた。16年参院選、18年知事選で敗れた魚沼市でも塚田氏を上回った。

塚田陣営には、安倍晋三首相が長岡、小千谷、南魚沼に応援に入り、幅広い世代に人気がある小泉進次郎衆院議員も駆け付け、てこ入れをした。だが選挙戦全体を通して、泉田裕彦衆院議員や地方議員の動きは鈍く、支持組織の高齢化も影響して広がりを欠いた。

5区エリア（長岡、小千谷、魚沼、南魚沼各市、湯沢町）

打越さく良氏	99,101(51.56)
塚田　一郎氏	86,893(45.21)

※衆院2、4区の一部を含む

自民「死守」掲げ底力

野党 唯一敗北、課題を残す

6区

わずか17票差とはいえ、小選挙区エリアで打越氏が唯一敗北し、次期衆院選に向けて野党側に大きな課題を残した。

打越陣営は、上越市の梅谷守・国民民主県連代表の事務所に6区選対を設置。2016年参院選で、同市で自民候補に大勝した森裕子氏（国民）が打越氏と一緒に街頭に立ち、知名度不足ばん回に努めた。立民や共産など野党各党に加え、連合新潟、市民連合・上越の「連絡調整会議」を軸に運動を展開。大票田の上越市では4893票差で塚田氏を下した。

塚田陣営は、自民党の県議や市議、建設業界がフル回転。終盤は、陣営幹部らが朝夕のつじ立ちをして支持を求めた。6区は選対本部長の高鳥修一農林水産副大臣の地盤だが、「公務」を理由に影は薄いまま。それでも「議席死守」を掲げる自民が底力を発揮し、塚田氏は上越市を除く4市町で勝利を収めた。

6区エリア（上越、糸魚川、妙高、十日町各市、津南町）

打越さく良氏	79,722(48.57)
塚田　一郎氏	79,739(48.58)

輸出規制を巡り 日韓 正当性主張

きょうからWTO理事会

【ロンドン共同】世界貿易機関（WTO）の一般理事会が23～24日、スイス・ジュネーブで開かれる。加盟164カ国・地域が参加できる会合で、日本政府が輸出で、兵器拡散の恐れがないと判断し手続き簡略化などの優遇措置を適用している「ホワイト国」の指定から韓国を8月中にも外す方針。半導体以外の産業にも影響が広がる可能性がある。

は、9日の物品貿易理事会以来。韓国側からの要請で一般理事でも取り扱うことになった。日本側から外務省の山上信吾経済局長らが出席。日本の措置が禁輸では本は軍事転用可能な物資の

は22日、欧州連合（EU）や日本、韓国、インドネシアが製造するステンレス鋼片とステンレス熱間圧延鋼板などが不当に安い価格で輸入されていると認定し、反ダンピング（不当廉売）関税を課すことを決定したと発表した。国内産業が損害を被ったとしている。

税率は18・1%から103・1%まで。期限は5年としている。23日から適用

ステンレス鋼

日本やEU製品

不当廉売 認定

れいわ、N国党 政党要件満たす

上 れいわ新選組の山本太郎代表
下 NHKから国民を守る党の

21日投開票の参院選で、国政初挑戦の「れいわ新選組」「NHKから国民を守る党」の両政治団体が公職選挙法と政党助成法上の政党要件を満たした。比例代選への対応について問われ、「出るしかないのではないか」と述べ、出馬に意欲を示した。山本氏は「皆さんの力を借りながら、政権を取りにいく気迫でいき

失言に加え「鷲尾氏の自民入りに対する批判票があった」（自民党関係者）こともあり、伸びなかった。

2019年7月22日『新潟日報』

地方に根差した政治を

報道部第二部長　小原　広紀

参院選は全国的に与党が堅調だったが、新潟選挙区は野党統一候補の新人が自民党現職を破るという対照的な結果となった。

「忖度」発言など自民党の塚田一郎氏側に失策があったとはいえ、2期12年の実績を訴えた現職の敗退だ。県外出身で知名度が低かった打越さく良氏が支持を広げた要因は、敵失ばかりではない。

選挙戦で問われたのは、6年半の「安倍政治」だった。与党は「力強い外交」や「強い経済」を掲げ、アベノミクスの実績として過去最高額の国民総所得、若者の就職内定率や有効求人倍率の上昇などをアピールした。

自民党本部は本県を激戦区としてこ入れ。安倍晋三首相が2度来県し、政府や党の幹部を続々と投入した。マスメディアやネットを使った広報も強化し、組織力と物量で野党を圧倒した。

しかし支持を広げたのは政府の経済政策を批判し、「格差是正」を訴えた野党側だった。背景には急速に進む人口減少をはじめ地域の将来への不安感もあったとみられる。

県人口は年間2万人のペースで減っている。10年で上越市規模のまちが消滅する計算だ。東京五輪を控えて活況を呈する首都圏に人も富も吸い寄せられ、足元では気息奄々とした地域が増えている。政府の「地方創生」の掛け声の一方で、中央や大都市との格差の拡大を多くの県民が感じているのではないか。

全国32の改選1人区で自民党は10敗した。本県同様に人口減に悩む東北各県などで苦戦したのは、候補の資質や陣立てだけの問題では決してないだろう。

今回の「新潟の選択」が問題提起したのは、大企業や富裕層が潤えば富が全体に行き渡るという中央目線のトリクルダウンとは異なる道の模索だ。私たち地方に暮らす国民が豊かな暮らしを実感できる政治、政策が求められる。

当選した打越氏の責任は重い。「落下傘候補」と攻撃されながらも県内をきめ細かく回り、多くの県民の声に耳を傾けることで信任を得てきた。交わした握手の感触を忘れず、地に足の着いた政策に取り組んでもらいたい。

昨年の知事選、新潟市長選で連敗した野党勢力は、背水の陣で盛り返した。これまで野党は離合集散を繰り返し、結果として自民党1強をアシストしてきた。〝選挙互助会〟だけの野党連携ではなく、日頃の活動を通して「野合」批判を払拭し、与党との対立軸を示さなければならない。

自民党はダメージが深刻だ。参院選2連敗で、1955年の結党以来初めて新潟選挙区の議席がゼロになった。衆院選でも県内で負け越しており、自民党が多数を握る県議会と国政とのねじれはさらに拡大した。塚田氏を支援した花角英世知事に対して野党勢力は反発を強めており、県政への影響も焦点となる。

今回の参院選では比例代表に特定枠が設けられた。自民党としては選挙区の合区であぶれた候補を救済する狙いがあるが、対症療法的でいびつな制度設計と言わざるを得ない。

参議院が衆議院のカーボンコピーと揶揄されるようになって久しい。参院選のたびに衆院解散が取り沙汰されるのは、官邸と自民党が両院をほぼ一体的にコントロールしているからで、二院制の意義自体が薄れている。

人口が減ったとはいえ200万人を超える本県や宮城県などの大県で毎回、膨大な「死に票」が出るのも問題だ。合区を見直して最低でも1県2人（改選1人）とした上で地方の多様な声を反映する仕組みにすれば、独自性が担保でき、議論の幅も広がる。1票の格差だけではなく、地方の格差を是正するために参議院の位置付け、役割を考えるべきだろう。